

会議の概要

令和4年度 第5回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 玉井小学校学校運営協議会

日 時：令和4年10月28日（金）16:25～17:55

場 所：玉井小学校 体育館

（進行：玉井小教頭 根本 芳弘）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

皆さん、こんにちは。それでは、令和4年度大玉村立玉井幼稚園・玉井小学校 学校運営協議会、第5回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を始めます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会職務代理者 伊藤 忠和）

皆さん、こんにちは。本日は、教育長が全国CS研究大会参加で出張のため代わってご挨拶いたします。CS委員の皆さん、先生方今日は大変お疲れ様でした。あちこちの授業を見させていただき、授業の準備や進め方等に先生方のご苦勞を感じました。本当にありがとうございました。

先生方そしてCS委員の方々は、子どもたちのために「こうしたらいかな」「ああしたらいかな」と考えを巡らせながら、学校あるいは地域の一員として頑張っていると思います。私たちも教育委員として皆さんの声を吸い上げて、いろいろな教育行政で架け橋にならなくてはいけないと思っています。これからも幼稚園・小学校・中学校の先生方、そして、地域の皆さんと一緒に、子どもたちを良くし、素晴らしい学校園、村をつくっていただける皆さんと共に頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （おおたま学園CS委員会副会長 矢吹 吉信）

皆さん、改めましてこんにちは。今日会長が体調不良ということで、代わって挨拶をさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。特に、玉井小学校の先生方はオープンスクールの準備等で非常にご苦勞があったことと思います。この後には学習発表会があるかと思いますが、それに向けて頑張っていたいただければと思います。

本日、（宣伝を兼ねてですが）私は“福笑い”というお米の発売日のために授業を参観することができませんでした。先生方と子どもたちが頑張っている姿を見たかったのですが…。仕事のため残念です。

その代わりということではありませんが、午前中に玉井幼稚園のさつまいも掘り体験があって、1時間ぐらい参加させていただきました。今年は春の苗植えから収穫ということで、年長組の皆さんが自分が植えた苗がさつまいもになるまでの過程を体験することができました。コロナが落ち着けば、来年は自分が収穫したものを販売するということを経験させたいなと副園長さんと話していました。そして、



こういった体験活動が子どもたちを成長させるのかなあと思いました。天候にも恵まれて、安達太良山が本当によく見えて、大きなさつまいもをとっている姿、友だちと協力している姿…。根っこがともしっかりしているので引っ張ってもなかなかとれないですね。それを友だちが助けてあげて、「○○ちゃんのとれたよー！」と言って喜んでいる姿を見ていると、大玉村は素晴らしい村だなと感じました。先生方は教室で教えるプロですが、こういったなかなかできない体験活動を子どもたちにさせてほしいと、今日改めて感じたところです。授業参観も分科会も出なかったわけですが、このようなことが言い訳でございます。

本日は玉井小学校と幼稚園に特化した会議となっております。テーブルで皆さんと会話できるのが楽しみです。以上で挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願いいたします。

4 玉井小学校・幼稚園出席者自己紹介

本日参加した玉井幼・小の教職員が自己紹介を行う。

5 検討方法・課題の確認

(1) 協議の進め方 (玉井小学校 教頭)

① 本日のテーマについての説明

玉井幼稚園・玉井小学校の教員から知・徳・体の3つの項目で、子どもたちの姿から課題としてあげられる点を集約し、熟議のテーマとした。

＜4つのテーマ＞

- A 家庭学習のありかたはどうあるべきか
- B 伝える力をつけるためにはどうすべきか
- C 相手意識をもったあいさつはどうあるべきか
- D 基本的な生活習慣をつけるにはどうすべきか
 - ・ 早寝早起き、朝ご飯について
 - ・ 運動の習慣化について
 - ・ 情報モラルについて

② 協議するテーマの選択

③ 選択したテーマについての協議

- ・ ピラミッドチャートの活用（ア 記入した付箋の貼り付け → イ 共通した考えをまとめる → 「これならできそう」な案を決めて書き込む）

④ グループで協議したことの共有化

(2) 玉井小学校・玉井幼稚園の教育活動について (玉井小学校長 佐藤 則之)

玉井幼稚園・玉井小学校の教育目標は同じで、「自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」です。私が本校に赴任した際に「大変インパクトのある教育目標だな」と感じましたし、今でもそう思います。「ふるさと」という4文字が教育目標に入っている学校は、いったいどれぐらいあるのでしょうか。私は、この玉井地区が学校や幼稚園に寄せる思い、地域の特質等こういうものをひしひしと感じています。ちなみに本校の3年以上の総合の学習テーマは、どの学年も「ふるさと」がキーワードになっています。ふるさととのつながりを大切にした学習を構成して、アプローチの視点を変えて、3年生は3年生なりに、4年生は4年生なりに……ということ学習活動を進めているところです。矢吹副会長さんからもご紹介がありましたが、幼稚園も地域の人たちにお世話になりながら、様々な体験活動を通じて、小学校に入学するまでに身につける資質や力というものを意識した教育活動に取り組んでいるところです。

オープンスクールのはじめの会でもお話を少しさせていただいたのですが、すでにコロナ禍になって

3年目を迎えております。その中で私たちは、「今まではこうだった」ということが通用しないということがはっきり分かってきました。やはり、私たち教職員が今まで以上にしっかりと頭を使って思考せざるを得ない状況になっています。

また、教育活動を精選化する必要性をいやというほど感じているのではないのでしょうか。活動意義の再確認は避けて通ることができません。否定を疑うことも忘れてはいけないと思います。そういった中で、様々な取り組みをしておりますが、今年度幼稚園も小学校も、子どもたちに育みたい資質や能力として、年度当初から先生方と確認しているキーワードは「主体性を育む」ということであります。その子にもよりますが、子どもたちが進んで主体的に学ぶ力をいかに育んでいくかは本園・本校の課題であるのかと考えているところです。

今日は、先程教頭から紹介がありましたが、4つのテーマを考えてきました。「本校・本園の子どもたちについて、今一生懸命に考えなくてはならないことはどんなことなのか」ということで整理したのがその4つにまとまったものです。今座っているテーブルの皆さんで、この4つのうちのどれについて話し合うか、そこから選択してみてください。結果、全部のグループが「A 家庭学習～」であつたらそれはそれでいいと思います。もしかするとバラバラになるかもしれません。それは皆さんにお任せします。いろいろと知恵を出していただいて、玉井の子どもたちのために、これから玉井幼稚園・玉井小学校の私たち教職員が、一つでも二つでも何か道しるべとしてそれに向かっていけるようなものを見つけていただければ、今日のCS委員会の熟議は本当に有意義なものになると思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



(3) テーマについての予備知識や背景の共有 (担当者より説明)

A 家庭学習のありかたはどうあるべきか

<目指す姿> 【幼】・たくさん絵本に親しむことができる。

・子どもと関わりをもつことができる(保護者)

【小】・自ら課題を選択し、自主学習に取り組むことができる。

・児童自身が必要感を持って主体的に取り組むことができる。

・苦手なことや伸ばしたいことを知り、家庭学習を工夫して取り組む。

<現状> 取り組みの差が大きい } 自分のために必要感を持って積極的に取り組めて
 やらされている感 } いない。



○ 親子で絵本を読む。

○ 子どもたちの意欲を高める取り組み(ex.自学の掲示、自分で選択、学年に応じた取り組みの指導)をしているが、様々な課題をクリアしていないのではないかという思いがある。

○ 子どもたちの発達段階や学年によって大きくめざす姿が変わる難しいテーマであるが、家庭学習のありかたについては保護者との連携が必要不可欠である。家庭や地域の方々がどのような考えや意見をもっているのかを知りたい。共有することにより、よりよい家庭学習にするためのきっかけにしていきたい。



B 伝える力をつけるためにはどうすべきか

<目指す姿> 【幼】【小】自分の気持ちを話せるように、自分の思いや考えを相手に伝えられるように

保育活動・教育活動を進めている。

＜現状＞【幼】困っていることを自分から話せず、気付いてもらうのを待っていたり、友だちに言ってもらい様子が見られる。

【小】自分の考えに自信がもてず、相手にそれを伝えることに苦手意識をもっている児童が多くいる。



【幼】幼児の言葉を先取りせず、自分の言葉で話せるように待つこと。じっくり聞くこと。場面に応じて丁寧に伝え方を教えること。

【小】授業中、自分の考えをもつ時間を確保し、友だち同士で話すようにしている。

何をどうしたいのか、どうしてほしいのか等、最後まで話すように促している。

○ 自分の思いや考え、困っていること等を言葉で伝えることは人とのコミュニケーションをとる上でとても大切なこと。

○ 今年度の取り組みをさらに充実させるために、幼稚園・学校と家庭・地域が連携しいっしょに考えていければと思い今回のテーマを設定した。幼稚園・学校でできること、家庭・地域でできること等のご意見やアイデアをいただければと思う。

C 相手意識をもったあいさつはどうあるべきか

＜目指す姿＞【幼】自然に自分からあいさつできる。

【小】自ら、時と場に合わせたあいさつができる。他

＜現状＞【幼】【小】「進んであいさつをしよう」「元気なあいさつをしよう」と子どもたちに話しかけてはいるが、実際は先生からあいさつをしてそれに返すということが多い。自分からあいさつをしてくる子どもはまだ多くはない。また、あいさつをする意識は下級生より上級生の方が高くなっている感じがする。あいさつされていることに気付かなかったり、あいさつをする意志がないのではと思われる様子が見受けられる。



○ 先生から進んで挨拶をして模範となるようにすること。

○ 子どもたちの普段の生活の中で意識することができるよう生活のめあてにする。

○ 校内環境を整える。

○ 以上のことに力を入れて取り組んできた。あいさつには「感謝を伝えられる」「存在を認める」「仲良くなるきっかけ」等生活をより良くする力がある。今年度の取り組みをさらに充実させるため、そして、意識をもってあいさつができるようにするため、幼稚園・学校・家庭・地域が連携していけたらいいと思っている。今回の話し合いでいろんなご意見をいただきたい。

D 基本的な生活習慣をつけるにはどうすべきか

＜目指す姿＞【幼】自分のことは自分でできる子

【小】自分で自分を律することができる。（自己マネジメントできる）他

＜現状＞【幼】【小】

- ・先生や保護者に言われないと動き出せない子、また、早寝・早起き・朝ご飯等の基本的な生活習慣が身についておらず、学習に集中できていない子が多数いる。
- ・保護者の関心や子育ての方針、家庭環境の違いから、子どもたち一人一人の生活習慣が大きく異なるが、家庭と学校が協力することによって必ず良い方向に改善することができると思う。
- ・情報モラルに関する課題も多い。ユーチューブやオンライン等のメディアの時間が長くなっている子どもが多い。タブレット使用のきまりを守れていない子もいる。



- 自己マネジメントタイムを使って一週間を振り返る時間を確保する。
- 朝食や歯磨きのチェックカードを配付し、学校と家庭が協力しながら子どもの生活習慣を見直してきた。
- 子どもたちが基本的な生活習慣を身につけるためには、学校と家庭が共に連携して一緒に考えていくこと。
- これからの時代を生きる子どもたちは、情報化社会の中で正しい情報を得ること、いろんな情報に惑わされないこと、情報モラルをもつこと等が大切になってくる。
- ぜひ今回の協議会で学校・家庭・地域でどんなことができるのかを話し合っていきたいと思っている。
- また、玉井小の子どもの運動能力は全国レベルに比べ少し低い傾向にある。運動習慣について今回のテーマや課題、現状等は記されていないのだが、子どもが日常的に運動習慣を身につけるためにはどうしたらいいかについても教えていただければと思っている。

6 グループ別協議

※ 各グループごとに進行



7 グループ別協議の共有

② グループ別で熟議したことの発表

テーマA 家庭学習のありかたはどうあるべきか

5 班

<家庭ができること>

- 保護者が子どもの家庭学習をみる時間をとる等関わりをよりもつようにすること。子どもたちと一緒にやることによって親子の信頼関係につながる。
- 今までやってきたことを続けていくことが大事。ただ、忙しいという現状があったり、そういう時間を確保できなかったりというところで難しさがあるのではないかな。

<学校園ができること>

- 教師は子どもの実態を把握できるので、子どもができそうな内容を宿題として提示したり、子ども自身が選択する場を与えたりすれば、意欲的に取り組めるのではないかな。ただ、そこを教員がどこまで見切るのか、どう評価するのが難しい。やはり家庭との連携が大切である。

7 班

<家庭ができること>

- 親が子どもに接する機会が減っているのかもしれない。子どもに手をかけることが大事。

○ 約束事を決めて子どもに実際にやらせることが大事。そして、遅く帰ってきたとしても親が必ず確認することは“親の務め”である。

○ 一番大事なのは家庭学習という癖をつけさせることで、親子の関わりが重要になってくる。小さい頃は読み聞かせをすとか、寝る前に子どもと反省会と称して今日何をしたのかを聞いて意見を言ったり、親として自分のことを話したりすとか、とにかく関わりをもつことが大切である。

いい関係が保たれる。

<学校園ができること>

○ タブレットを使っでの学習機会が増えているので、ゲーム感覚でできるような宿題があってもよい。

○ 先生と保護者で情報の共有をする。先生方がどこまで親に伝えていいのか判断することは難しいのだが、単に「やってきませんでした。」というように一方的なことでもよいので、学校でどういうことをしているのかを情報として伝えることが大切である。



テーマB 伝える力をつけるためにはどうすべきか

1 班

<家庭ができること>

△ 日頃ユーチューブを見ていて、意味の分からない言葉を使ったり、間違った使い方をしたりすることがあって、一方的なコミュニケーションになりなかなか会話が成立しない。

△ 家族でおうち時間をなかなか一緒に過ごすことができていないという現状がある。自分だけの判断で言葉を身につけてしまうことがある。



○ どうしてもかみ合わないのは仕方が無いので、日記をつける等してそれを交わすことによって、家族の中でコミュニケーションをとるのも一つの方法である。形（文字）として残るので気持ちを共有できるのではないかな。

○ どうしてもネット環境を使いたいというのがある。（保護者が率先して使っている場合もある。）それを見ているとどうしてもそこから離れられないということがあるので、家族全体でメディアコントロール等の行事に取り組んでいくべきである。

<学校園ができること>

○ どんなに多忙であっても子どもの話をしっかり聞くことが大事である。（先程のグループでの熟議では、頷いたり、「そうだね」等の言葉があつて、とても話しやすい雰囲気できれやかにコミュニケーションがとれた。まさにそのようにできればと実感した。）

また、その際に正しい言葉を使えるように教師が手本となつて伝えることや意図的に話す場面を用意して、うまくできたという成功体験を子どもに味わわせることによって育てていくこともできるのではないかな。

○ 大玉村では、幼・小・中と仲のよい人間関係のまま（学年が）上がっていくといういい条件がある。そういう環境の下で話しやすい環境ができあがっていくわけなので、そこを有効に活用しながら伝える力を伸ばしていくことも可能ではないかな。

2 班

<学校園ができること>

○ 話す練習…授業だけでなく、朝・帰りの会のスピーチの場を生かしながら実際に話す経験をさせ

ていく。

○ 聞く方の態度も大切になってくるのではないかな。実際に聞いてもらえる環境づくりが大切。

○ 失敗しても大丈夫なんだよとあたたかい雰囲気をつくりだしていくこと。

＜学校園・家庭両方に関わること＞

○ 「待つこと」「会話の大切さ」が2班では大きな話題になった。子どもたちが話したがってるのに時間が無いということで待たなかったり、はじめに答えを言ってしまったりとかしがちではなかろうか。実際に話を聞く前に、「分かった、分かった…」とか会話を遮ってしまうことが家庭でも学校園でもあり得る。子どもたちの話を最後まで聞いてあげることが大切である。

＜タブレットについて＞

○ タブレット上で流ちょうに友だちのよさ等を発表できるという現状であるが、「実際に対面で相手のよさを伝えられるようになってほしい」という意見が出され、それについて話し合われた。

8 班

＜学校園ができること＞

○ 自分が話したいことを整理して話すことが苦手な子たちにはどんなふうに話をしたらいいのかについて意見が出された。一方的にこちら（教師側）から話すのではなく、子どもたちの反応をしっかり見て、「どんなことを考えているのか、理解しているのか」等確かめながら接するようにしたい。相手の話を大事に聞くことが、自分の気持ちを伝えることにつながるのではないかな。

○ 子どもたちの話をしっかり聞くことで伝えたかったことを受け止めれば、子どもたちの話す意欲が高まり自信もつくのではないかな。

＜学校園・家庭両方に関わること＞

○ 子どもたちが伝えたい気持ちとかは、成功体験をしたり嬉しいことがあったりした時に大きくなりどんどん話したくなるので、それが伝える力につながるのではないかな。

○ （嬉しいことばかりではなく）困ったことや失敗したことについても、注意するとか叱るとかではなくて、何でも聞いてあげるといふ話しやすい雰囲気をつくることも大切である。

＜家庭ができること＞

○ 家庭では忙しくて子どもと話す時間がなかなかとれないことがあるのかなということが話題に上がった。学校だと集団の中での話になってしまうので、じっくりと1対1で話し合うことができるといい。（言葉のキャッチボール）

○ 子どもに絵本の読み聞かせをすることで、そこでまた話を聞くとか、いろんなところで会話をするとかできるといい。

テーマC 相手意識をもったあいさつはどうあるべきか

3 班

テーマBについての話を聞いていて、あいさつも伝える力に含まれるのかなと感じている。地域や家庭というのは強みでもあり弱みでもある。あいさつの土台ができている子は日常的にできているが、できない子は家庭での習慣がないのではないだろうか。

＜家庭ができること＞

○ 地域の方から「子どもたちにあいさつをしていただいているが、子どもたちが知らない人にあいさつをするということはなかなかハードルが高いと思う。」という意見が出された。子どもたちにとってもあいさつをしても返ってこなかった時のショックは大きいと思われる

→ 地域の方から子どもたちにあいさつをするようにする。（子どもたちから返ってこなくとも）きちんとできた時には褒めていただく。このような成功体験を積み重ねて「嬉しいな」、「あいさつはおもしろいな」という気持ちになるのではないかな。

<学校園ができること>

- 幼小の連携、小学校における縦割り班の活動等今はあまりできないことも多いのだが、休み時間に一緒に遊んだり、登校班等での異学年交流をしたりする中で、上の学年のお兄さん、お姉さんたちの姿から学ぶことができる。
- あいさつはどうしてしなくてはいけないのか
私たちは「あいさつしましょう！」と言っているのだが、子どもたちは「あいさつはどうして必要なの?」「どこが気持ちいいの?」と思っていることも多い。あいさつの意味を考えさせ、「あいさつは気持ちのいいもの」という実感がもてるようにしていかなければならない。あいさつを押しつけるのではなく、「あいさつをしたくなる」そういった方向にもっていけるようにする。

テーマD 基本的な生活習慣をつけるにはどうすべきか

4 班

<学校園ができること>

- 集団生活や友だちとの関わりの中で、自分で「自分の生活習慣のここがおかしいな」「ここではこういうことをしなければいけないんだな」と気付くことができる。
- 先生が正しい行動をした子に対して賞賛の声をかけることによって、他の子も「こんなふうになればいいんだな」と理解できる。
- おたよりを活用して学ぶ機会をつくる。また、講演会の講師として警察署の方に来ていただき、保護者が勉強したり、連携したりできるようにする。

<家庭ができること>

- 親の生活習慣が子どもの生活習慣に直結するので、親が正しい行動をすれば、子どもも正しい行動をするようになるのではないかな。
- 最終的には家庭が一番大事であるので、その子に合わせた細やかな指導をする。

<学校園・家庭両方に関わること>

- 幼稚園、小学校、保育園、そして保護者自身も本当にたくさんのことをやっている。「いろんな活動が多すぎて何に注目していいかわからない」という声が保護者から出された。何ができるのかということよりも何をすべきなのか内容を精選していかなくてはならない。これから情報教育がどんどん進んでいく中で、保護者や教員の負担も増えていくので、中身の精選が大事である。
- 保護者の意識を変えることはなかなか難しいので、子どもがよくできた姿、また、子どもが学校でしたこと等を伝えていく機会を増やすことで、「もっと家庭が頑張らなくてはいけないな!」と保護者に気付いてもらうことが大切なのではないかな。

6 班

<学校園ができること>

- 大玉村だからできることを大切にする。(ex.校庭の環境がとてもきれいであること。CSの協力があること。玉井小だけでなく他校でも同じ時期に同じ内容のことができること。)
- 朝ご飯を食べることが大切ということを家庭に発信することはこれからも大切である。

<家庭ができること>

- 家庭においてもスマホを始めSNSについて親子で話し合い、約束を決めて扱ってほしい。スマホを手放せないでいる親もいるということで改善が必要である。



9 班

「早寝・早起き・朝ご飯」に絞って話し合いを行った。

<家庭ができること>

- 今家庭は、核家族で共稼ぎが多くて、交代勤務等もあって忙しいというところがほとんどである。子どもの生活時間に合わせて生活しない大人が多く、その辺の改善をお願いしていくというのは難しい。家庭で寝る時間、起きる時間を決めてみるのはどうだろうか。
- 1日の中で、子どもの話を聞いてあげる時間を確保すること
- 生活や食事について親がまず手本を見せること

<学校園ができること>

- 子どもには、規則正しい生活習慣を身につけることのよさを繰り返し指導している。家庭にもプリント等で啓蒙したり、授業参観の折に伝えていくようにする。
- 朝起きた後の時間の使い方について
 - ・ 中学生であっても起きてからボーっとしている子がいるという話もあった。新聞を読んで学校で発表する機会をつくるのはどうだろうか。
- 簡単レシピの紹介をする … 子どももできるようなレシピ（→自分でおにぎりを作る。みんなが同じものを食べることで、苦手なものも食べられたということもある。）
- 玉井小の子どもの運動能力が平均より低いという話があった。学校では昔からマラソンが取り入れられており、「日本一周マラソンカード」を使ってシールを貼り、掲示する等して子どもの励みにしていた。今もあたら健康マラソンに向けて子どもたちは毎日走っているのだが、そのような感じで体を動かすように仕向けると、自然とお腹を空かせて食事がとれるようになるのではないかな。
- 幼稚園では、朝ご飯で食べたメニューをみんなの前で発表する活動をしてきた。「今日は何を食べてきましたか？」ということで話を聞くうちに、自分も食べてきて話したいという気持ちが強くなった。

8 講 評

（おおたま学園CS委員会副会長 矢吹 吉信）

皆さんお疲れ様でした。内容の濃い熟議だったなと私は思いました。今日の協議で（テーマの）AからDに共通するのはコミュニケーション能力で、やはりコミュニケーションが大事だなということです。友だち同士でのコミュニケーション、先生とのコミュニケーション、地域とのコミュニケーション等コロナの影響で行事が制限されたりして、コミュニケーションをとる機会が少なくなっています。いずれは軽減されると思いますが、いろんな活動を通して地域、先生、保護者とで酒を酌み交わしながら、腹を割って話し合い仲良くなる、そして情報交換したりするという機会が今はなくなっています。徐々にそういった制限も取り払って、CSの皆さんと酒を飲んだりするのも大事なのかなと思っています。

はじめに玉井小学校の佐藤校長先生から話があったように、教育目標に「自分のふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」と記してあるのですが、これは子どもだけではなく、保護者も自分の村に誇りをもちたいと子どもに大したことを言えないと思いますので、私は地域住民としてこの村に誇りをもって、子どもたちを育てていきたいと今日改めて思いました。実りの多い時間を本当にありがとうございました。みなさん、お疲れさまでした。

9 御礼のことば

（玉井小校長・幼稚園長）

今日は4つのテーマということで、どのテーマについてどんな話し合いが行われるのか関心を持っていたところです。今回実際に選んでいただいたそれぞれの4つ、やはり関心事としてそれぞれの人たちがいろんな課題を感じながらも、「どれか一つ選ぶとしたならば、どれを選びますか？」という選択の場がとても大事なんだなということを改めて思いました。自分が一番に選んだ選択肢でなくても、

それについてのいろんなご意見を今回聞かせていただいたことは、今後玉井の子どもたちを幼稚園・小学校で育てていくに当たって大変参考になると思います。

来週本校では1日、2日と授業参観を予定しております。授業参観では学級懇談会を予定しております。私が知る範囲では、本校では学年懇談会をやってきたのだけれども、学級懇談会というのは今までやってこなかったのではないかというお話を聞いたことがあります。学級懇談会をする時にも、例えば「CS委員会でこんなテーマでこんな話が出ましたよ。お母さん方はどんなふうに考えられますか?」といったことも提案の一つになるのかなと感じました。

大変参考になる熟議でありました。ありがとうございました。

10 閉会のことば

(おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都)

長い間お疲れ様でした。授業参観から今回の懇談までありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度大玉村立玉井幼稚園・玉井小学校学校運営協議会並びに第5回おおたま学園CS委員会を終了したいと思います。朝晩寒くなりましたので、暖かくして休まれ、お帰りの際もお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

